



治療内容について患者に丁寧に説明していく
加藤名譽院長

難症例への対応を含めた 甲状腺手術を実践

前頸部にある甲状腺は、新陳代謝を促進する甲状腺ホルモンを分泌する臓器だ。甲状腺にはさまざまな疾患が生じが、その中でも悪性の腫瘍に対しては外科手術が第一選択肢となる。

総合上飯田第一病院の加藤万事名譽院長は、着任以来、常に年間100例以上の手術を手がけてきた医師だ。「愛知県における、この分野を担う病院の集約化や、当院と同じく治療に力を入れている大須診療所との連携が進んだ結果、近年症例数が急増してきました。紹介される症例の中には、30

センチを越す大きな腫瘍など、一般的に治療が困難なものも数多く含まれています」。胸部にまで広がった腫瘍は、胸骨を切開して取り除くなど、胸部外科の技術を要する難易度の高い手術も行ってきたという。そうした数多くの症例を手がけた結果、口コミや紹介が増え続け、現在では2014年1～10月だけで351例の手術を行うまでに至っている。



社会医療法人愛生会

総合上飯田第一病院

甲状腺手術の豊富な
経験を生かし
低侵襲・機能温存手術を追求

血管・神経の温存や 短い手術時間を目指す

「甲状腺の周辺には血管や、声帯の神経、肩を動かす神経などが走っており、傷つけてしまえば出血や各機能への悪影響を引き起こしかねません」として、加藤名譽院長は正確かつ低侵襲な手術を心がけ、「切開を3～4センチにとどめる」「血管をすぐに見つけて止血する」「顕微鏡下で細かく組織を剥離する」などの処置を緻密に進めていく。神経に密着した腫瘍に対しては、腫瘍ごと切除した後、

加藤万事

名譽院長兼甲状腺内分泌センター長
かとう まこと
名古屋大学医学部附属病院 名古屋大学第一外科勤務を経て現職。日本外科学会認定外科専門医など



残された神経をつなげて再生を目指すことも可能だ。こうした治療を可能にする、血管や神経の位置などの知識は、一般的に5時間かかる手術を1時間半で終えるなど、時間の短縮も実現させている。

「近年、各領域で機能温存や低侵襲が注目されてきましたが、甲状腺の領域では、それを早くから行ってきたのです」と、早期から負担の少ない手術に取り組んできた加藤名譽院長。近年登場が見込まれる最新の抗がん剤に注目するなど、さらなる高度な治療を目指している。

取材／鈴木健太

社会医療法人愛生会 総合上飯田第一病院

診療体制：内視鏡センター、腎センター、甲状腺・内分泌センター、
乳腺センター、人工関節・関節鏡センター、健診センター

診療受付時間（甲状腺・内分泌センター）：火・木 8:30～11:45
水 12:30～16:00

病床数：230床

〒462-0802 愛知県名古屋市中区上飯田北町2-70

TEL.052-991-3111 FAX.052-981-6879

http://www.kamiida-hp.jp/

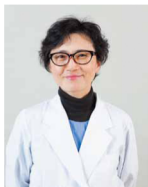
総合上飯田第一病院

検索



20年以上の歴史を持つ 網膜硝子体手術への取り組み

目の内部を満たす硝子体や、視神経を持つ網膜には、網膜剥離や硝子体出血、黄斑上膜、黄斑円孔、網膜静脈閉塞症、糖尿病性網膜症など、さまざまな疾患が生じる。それらを治療する硝子体手術を20年以上前から取り組んできたのが総合上飯田第一病院だ。「手術やレーザー治療、薬物療法などを症状に合わせて行ってきました。その結果は必ず眼科全体で振り返り、治療が適切だったのか、改善を要するのは何かを検討しています」と古川真理子眼科部長は語る。



ふるか まりこ
眼科部長 古川 真理子

医学博士、大津赤十字病院、真井厚生病院勤務などを経て現職。日本眼科学会認定眼科専門医など。



社会医療法人愛生会

総合上飯田第一病院

20年以上網膜硝子体手術を 手がけた経験で行う 最新治療の活用や術後フォロー

こうした診療経験や、活発な論文執筆・学会発表などを通じて培ってきた技術・知識に基づいて、同科では新しい機器や術式を積極的に取り入れ、負担の少ない治療を追求してきた。0.5mmと細い27ゲージの手術機器もその一例だろう。「器具を通すために粘膜の切開を要した以前と異なり、器具が細くなったことで切開の必要がなくなりました」と古川眼



手術室には最新の機器が揃う

科部長。結果、術後の縫合が不要になり、出血の抑制や、ゴロゴロ感・乾燥感の防止をもたらしたという。また、院内の各科との連携で高血圧や腎不全など、全身疾患を持つ患者にも対応できる。特に、失明の大きな原因となる糖尿病性網膜症には、糖尿病内科で血糖値コントロールを合わせて行うことも可能だ。

長期的な視点を持ち 術後のフォローを徹底

術後のフォローを徹底しているのもまた同院の特長といえる。「私達は、長期にわたり患者さんとお付き合います。中には10年以上診ている方も多いのです」と古川

眼科部長。それにより、治療後の再発への対応や、もう片方の目の疾患予防や早期治療を心がけてきた。また、そこから得られるデータを生かし、長期的な視野で適切な治療を選べる点も患者にとってありがたいだろう。

同科では、より眼科医療の質を向上させるために研鑽を重ね続けている。複数の大学と連携して知見を得ていることもその一環だ。「親切・丁寧」をモットーに、患者さんの相談に親身に応えさせていきたいと思います」と古川眼科部長はいう。

取材／鈴木健太

社会医療法人愛生会 総合上飯田第一病院

診療体制：内視鏡センター、胃センター、甲状腺・内分泌センター、乳癌センター、人工関節・関節鏡センター、健診センター

診療受付時間（眼科）：月～金 8:30～11:30
水（第3週）12:30～15:00

病床数：230床

〒462-0802 愛知県名古屋市中区上飯田北町2-70

TEL:052-991-3111 FAX:052-981-6879

<http://www.kamiida-hp.jp/> | 総合上飯田第一病院

